

NGO サポート募金

「ネパール地震 緊急支援まとめて募金」

活動報告書

期間:2015年4月26日~7月31日



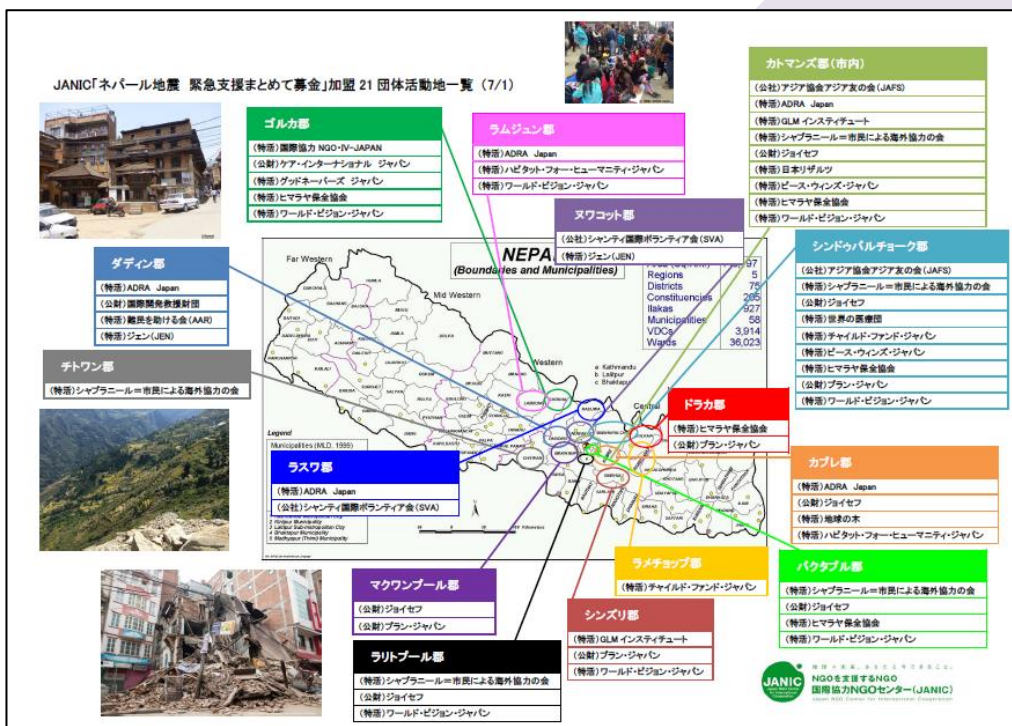
地球×未来、あなたと今できること。

NGOを支援するNGO
国際協力NGOセンター(JANIC)
Japan NGO Center for International Cooperation

あたたかいご支援 ありがとうございます。

4月25日(土)にネパールで強い地震が発生し、首都カトマンズをはじめ現地で甚大な被害が出ました。日本の国際協力 NGO が緊急支援を開始したことを受け、JANIC では現地で活動する NGO 団体をサポートするために「ネパール地震 緊急支援まとめて募金」を開設いたしました。

地震発生翌日の4月26日(日)から7月31日まで、**581組**の方々から**14,840,085円**のあたたかいご寄付をいただきました。いただいたご寄付は、ネパールの被災地で活動する21団体に均等に分配させていただきました。※JANICに手数料として20%いただいています。



www.janic.org/bokin

※2015年7月1日時点の活動地です。現在の活動地につきましては、各団体へお問い合わせください。

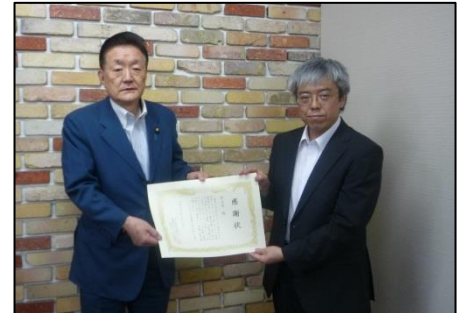
参加 21 団体一覧

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| (公社)アジア協会アジア友の会 | (特活)世界の医療団 |
| (特活)ADRA Japan | (特活)地球の木 |
| (公財)ケア・インターナショナル ジャパン | (特活)チャイルド・ファンド・ジャパン |
| (特活)グッドネーバーズ・ジャパン | (特活)難民を助ける会 |
| (公財)国際開発救援財団 | (特活)日本リザルツ |
| (特活)国際協力 NGO・IV-JAPAN (5月参加) | (特活)ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン |
| (特活)ジーエルエム・インスティテュート | (特活)ピースウィンズ・ジャパン |
| (特活)ジェン (7月参加) | (特活)ヒマラヤ保全協会 (5月参加) |
| (特活)シャプラニール=市民による海外協力の会 | (公財)プラン・ジャパン |
| (公社)シャンティ国際ボランティア会 | (特活)ワールド・ビジョン・ジャパン |
| (公財)ジョイセフ | |

(あいうえお順)

「ネパール地震 緊急支援まとめて募金」に関する JANIC の活動

4/26	「ネパール地震 緊急支援まとめて募金」立ち上げ
4/29	メーデー中央大会に出展、ネパール募金活動実施
5/1	J-WAVE の「～JK Radio～ Tokyo United」に出演、NGO の活動状況を伝える
5/7	民主党「ネパール大地震災害対策室会議」に参加 NGO 側から被害及び対応状況を伝える
5/11	ヒマラヤ保全協会主催「ネパール大地震現地情報共有会」に登壇 現地の被害状況と日本の NGO の緊急支援活動について話す
5/20	「DAYS JAPAN」6月号に掲載
5/29	【第1回】NGO へ寄付金を均等分配(18団体)
6/30	民主党 藤田幸久国際局長来訪、街頭募金・有志によるご寄付に対する 感謝状を贈呈 【第2回】NGO へ寄付金を均等分配(20団体)
7/31	「ネパール募金 緊急支援まとめて募金」終了 【第3回】NGO へ寄付金を均等分配(20団体)
8/31	【第4回】NGO へ寄付金を均等分配(21団体)
9/30	「ネパール募金 緊急支援まとめて募金」活動報告書完成



民主党 藤田幸久国際局長(左)と感謝状を贈呈する JANIC 定松事務局長(右)



ヒマラヤ保全協会主催「ネパール大地震現地情報共有会」にて日本の NGO の活動について話す

「ネパール地震 緊急支援まとめて募金」は終了しましたが、ネパールの復興はまだまだこれからです。日本の NGO も現地で引き続き支援活動を実施してまいりますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

世界にはまだまだ多くの課題があります。課題解決に取り組む NGO をぜひ応援してください。



メーデー中央大会にてネパール募金活動

■ NGO サポート募金とは

複数の NGO へ一度に寄付が出来る仕組みです。NGOサポート募金なら、個々の NGO のことはよくわからなくても、関心のある分野に簡単に寄付ができます。8つの分野に分けた「まとめて募金」では、JANIC を通して各分野で活動している NGO へ募金が均等に分配されます。

● 信頼性

厳格な JANIC の正会員基準を満たした正会員 NGO、且つ、最新のアカウントビリティ・セルフチェックを取得した団体のみが参加できます。

● NGO ならではの支援を応援できます

NGO が支援するのは、世界の公的な援助からも、現地政府の支援からも取り残されてしまった人々です。「自立支援」をキーワードに、現地の人々が自ら状況を変えていくためのサポートを行っています。

- 📖 教育支援
- 🌾 農業・農村開発
- 🏥 保健医療支援
- 🌳 環境保全・環境教育
- 🏠 平和構築・難民支援
- 👩 女性の自立支援
- 👶 保護が必要な子どもの生活支援
- 👥 ネットワーク・提言活動



詳細・ご送金方法



NGOサポート募金



で検索をお願いします。 <http://www.janic.org/bokin/>

1. 団体名	<p>公益社団法人アジア協会アジア友の会</p> <p>ホームページ URL: http://jafs.or.jp/</p>	
2. 活動地域	<p>シンドウパルチョーク郡ボテシパ村 ビムタール村、チョータラ周辺 ダーディン郡、ドラカ郡、バクタプール郡、カトマンズ郡</p>	
3. 支援対象者	<p>被災地の村民、教育機関(学校)、仮設住居者</p>	
4. 活動期間	<p>2015年4月～継続中</p> <p>※対象期間:2015年4月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>第1次支援 シンドウパルチョーク郡、カトマンズ郡、バクタプール郡の被災者支援のための調査及び食料及び生活物資配布を実施。配布物資は、米・ラーメン・毛布・医薬品・タオル・マスク、他生活物資</p> <p>第2次支援 ①シンドウパルチョーク郡ボテシパ村、ビムタール村の全世帯、チョータラ、バタセ／ダーディン郡／ドラカ郡ジリ近郊の村の約2,700世帯及び手の届いていない地域に食料及び生活物資配布 ②シンドウパルチョーク郡ボテシパ村の公立学校へ仮設校舎設置 7校舎 ③学校への文具、制服等の支援</p>	
6. 主な活動成果	<p>① 被災生活の不安から物資供給による生活の見通しが可能による安堵</p> <p>② 仮設住居設置補助及び仮設住居の環境改善</p> <p>③ 教育機関の普及と地域における学校教育の再開と衛生状況の確保</p> <p>④ 子どもたちへの安心提供(安全なTLC設置により)</p> <p>⑤ 飲料及び生活のための水の復旧による生活の安定と安心</p> <p>⑥ 偏った食事へのフォロー</p>	
7. 活動写真		
	<p>配布された物資を運ぶ被災者たち</p>	<p>仮設校舎として復旧した学校</p>

1. 団体名	<p>特定非営利活動法人 ADRA Japan</p> <p>ホームページ URL : http://www.adrajpn.org/</p>	
2. 活動地域	ラリトプール郡、ダディン郡、ラスワ郡	
3. 支援対象者	地震被災者(ダディン郡、ラリトプール郡、ラスワ郡)	
4. 活動期間	<p>2015年4月26日～10月14日まで</p> <p>※対象期間:2015年4月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>地震発生時にネパールに駐在していた日本人スタッフが、地震の直後から情報収集や支援物資の手配を行ないました。結果、カトマンズの西隣のダディン郡に350枚のビニールシートを迅速に提供することができました。またカトマンズの南隣のラリトプール郡では、人口密度が高い都市部であることに配慮し、90張のテントを配付しました。このテントは、村の共有スペースにビニールシートを張って生活していた被災者のうち、子どもやお年寄り、障がい者のいる世帯に対して優先的に配付しました。土地に余裕のある村落部のダディン郡と、土地が限られている都市部のラリトプール郡、それぞれの環境を考慮し、現地のニーズに適した物資を配付することができました。</p> <p>現在はカトマンズから車で6時間ほどのところにある、中国と国境を接する山岳地域のラスワ郡の3つの村(ティムレ、ブリディム、トゥーログウン)の760世帯を対象に仮設家屋の建設支援(建設資材の提供、建設技術トレーニング)を継続中です。既に約500世帯分の仮設家屋が完成しています。</p>	
6. 主な活動成果	<p>地震により家が全壊または一部損壊し、元の家に住めなくなった世帯は約80万世帯にのぼると言われています。雨季を目前に控えた4月下旬から5月中旬にかけ、ビニールシートとテントを配付したことにより、被災者は当座の雨風を凌げる場所で生活することができるようになりました。また、ラスワ郡では地震による土砂崩れや落石によって被害を受けた世帯に対し、建設資材と建設技術トレーニングを合わせて支援することにより、住民自らの手で揺れに強い仮設家屋を建設できるようになっています。今後は、ラスワ郡での仮設家屋建設支援を引き続き実施するほか、甚大な被害を受けた医療施設の再建支援活動を行うことを検討しています。</p>	
7. 活動写真	 <p>ラリトプール郡に配付したテント。組み立ては住民にも手伝ってもらった</p>	 <p>ラスワ郡にて、建設技術トレーニングを受けた村人が自ら仮設家屋を建設した</p>

1. 団体名	<p>公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン</p> <p>ホームページ URL : www.careintjp.org</p>	
2. 活動地域	ダディン郡、ラムジュン郡、ゴルカ郡、シンドゥーパルチョーク郡	
3. 支援対象者	ネパール地震被災者	
4. 活動期間	<p>2015年4月～活動中</p> <p>※対象期間:2015年4月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>2015年6月末までに、3,982世帯(19,910人)に食糧を配布。品目には固形食品を中心にビスケット等のインスタント食品、米、豆、油、塩等が含まれました。同時に、9,725世帯(48,625人)に、緊急のシェルターと生活物資を提供し、瓦礫の撤去作業も併せて実施しました。加えて、8,199世帯(40,989人)には安全な飲料水及び衛生用品を提供するとともに、簡易トイレの設置も進めました。</p>	
6. 主な活動成果	<p>3,982 世帯 食糧を配布した世帯数</p> <p>9,725 世帯 緊急のシェルターと生活物資を提供した世帯数</p> <p>8,199 世帯 安全な飲料水と衛生用品を提供した世帯数</p> <p>今後は、被災者の生活再建に向けたシェルターの自主再建や生業支援を行いながら、時間の経過とともに、平常時以上に問題がより顕在化されると考えられている家庭内暴力や人身売買等の性差に基づく暴力が深刻化しないように、被災地域の住民や関係諸機関に広く啓発していく必要があります。</p>	
7. 活動写真		
	Paslang 村にて支援物資を配布する CARE 職員 © CARE/Ruhani Kaur	Aduwabari 村にて支援物資の荷下ろしをするCARE職員 © CARE/Dhakal, M. P.

1. 団体名	<p>特定非営利活動法人グッドネーバース・ジャパン</p> <p>ホームページ URL: http://www.gnjp.org</p>	
2. 活動地域	ゴルカ郡	
3. 支援対象者	ゴルカ郡の被災者、子ども	
4. 活動期間	<p>2015年4月～2015年12月(予定)</p> <p>※対象期間:2015年4月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>グッドネーバース・ジャパンは4月30日、日頃から地域開発を実施しており、地震で甚大な被害を受けたゴルカ郡に事務局長の小泉を派遣し、被害状況の調査及び国連調整会議に参加しました。</p> <p>ゴルカ郡内の5つの地域には82系統の給水システムがあり、ひとつの給水システムに平均5.2か所の公共水場がありますが、ゴルカ郡公共水道局の調査では、このうち約70%の約57系統、約300か所が使用不可能になったということです。山道を上り下りして川などから運べる水の量には限りがあり、特に乾季になると飲料水や生活用水の確保が困難になり、不衛生な水の使用による衛生状態の悪化も懸念されるため、当団体は公共水道の修理事業を実施することを決定しました。</p> <p>グッドネーバース・ジャパンは破損した給水システムのうち、約49系統70か所のパイプと40か所にタンクを支援する予定です。活動地域は山間部で車両が通れない村も多く、現地の方の協力を得ながら目的地まで4時間、パイプやタンクを背負い山道を歩いて被災地まで運び、修理をすることもありました。雨季が開けた9月からは18か所で取水施設の修理も始まっています。</p>	
6. 主な活動成果	<p>水源からパイプを繋げたある村では、パイプをタンクに取り付け水を溜めると、水道栓を通じて綺麗な水が流れ出てきました。より使いやすいようにと、住民が用意した蛇口が取り付けられた箇所もあります。</p> <p>今回の事業により、約1,170世帯(約6300人)の飲料水、生活用水のアクセス改善が見込まれています。</p>	
7. 活動写真		
	パイプを背負って山道を歩き、被災地へ届けました	タンクに水がたまり始め、早速住民によって使われ始めました

1. 団体名	<p>公益財団法人国際開発救援財団</p> <p>ホームページ URL: http://www.fidr.or.jp/</p>	
2. 活動地域	<p>ネパール国 バグマティ県ダーディン郡カルテ地区、クンプル地区、カレリ地区及びスナウラ・バザール地区</p>	
3. 支援対象者	<p>活動地域の住民 約41,000人(約7,500世帯)</p>	
4. 活動期間	<p>2015年4月 ~ 2016年3月 ※対象期間:2015年4月~2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食料支援(米配布)2,600世帯 2. 仮住居設置支援(防水シート)1,800世帯 3. 衛生用品の配布 6,000世帯 4. 小中学校仮設教室用資材の提供等 約100教室分 5. アセスメント・調査・評価 	
6. 主な活動成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 山間地域の行政による援助が全く届かない被災地区において、震災直後の食と住を確保し、早期の日常生活の回復に寄与しました。 2. 手洗い用石鹼や洗濯石鹼、消毒用品などの配布および使用励行により、地域の感染症予防に役立てることができました。 3. 約50の小・中学校において仮設教室の設置を支援し、早期の授業再開を果たすことができました。 	
7. 活動写真	 <p>衛生用品の配布を喜ぶ被災地域の人々</p>	 <p>支援された仮設教室で授業を再開した学校</p>

1. 団体名	<p>(認定)特定非営利活動法人 国際協力 NGO・IV-JAPAN</p> <p>ホームページ URL: http://iv-japan.wix.com/iv-japan</p>	
2. 活動地域	ネパール ゴルカ郡タクマズラクリボット村	
3. 支援対象者	タクマズラクリボット村701世帯(4500人)	
4. 活動期間	<p>2015年5月24日～継続中</p> <p>※対象期間:2015年5月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンププラットフォームの資金で、地震の特に被害の大きかったゴルカ郡の中で、緊急支援が遅れているタクマズラクリボット村の住民701世帯に緊急支援物資として1世帯あたり蚊帳2枚、洗濯せっけん3ダース、タオル3枚、毛布(カーペット)1枚、およびそれらを入れるためのプラスチックバッグ1個を配布しました。 ・併せて、同村を中心に周辺村の被災者の今後の生活再建・復興支援活動については、カウンターパート(女性信用組合)と協議の上、村の女性を対象に現金収入を得るための職業訓練を雨季が明け農作物の収穫が終わる10月27日から実施することで合意し、生計支援プロジェクトに向けて準備、調査を進めました。 	
6. 主な活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ・5月24日から6月21日まで29日間、ゴルカ郡タクマズラクリボット村にて蚊帳、石鹼、毛布、タオルなどを701世帯 に配布しました。特に、村民にとって高価である洗濯石鹼は喜ばれ、きれいに洗濯した衣服を着ることができて気持ちが良いとの声が多く聞かれ、村民の衛生意識も高まりました。 ・カウンターパートと協議の上、「同村での生計支援プロジェクト」では、石鹼作りと縫製の職業訓練を実施し、現金収入を創出することで、生活再建と女性の社会的経済的自立を支援する予定です。 	
7. 活動写真	 <p>プラスチックバックに支援物資を詰めてもらう女性</p>	 <p>地元の女性信用組合との復興支援計画打合せ</p>

1. 団体名	<p>特定非営利活動法人 ジーエルエム・インスティテュート</p> <p>ホームページ URL: http://www.gminstitute.org</p>	
2. 活動地域	ネパール国シンズリ郡クセスワ・ドウムジャ村	
3. 支援対象者	クセスワ・ドウムジャ村に居住する少数民族を中心とする村民約1000世帯	
4. 活動期間	<p>2015年4月～2015年12月</p> <p>※対象期間:2015年4月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>2015年5-6月に、ネパール政府の規定に沿い、村落開発委員会(VDC)や村のリーダーと協議し、クセスワ・ドウムジャ村の家屋が全壊したハユ族・マガール族の75世帯、貧困世帯や家屋の被害が大きかったマガール族・タマン族を中心とする102世帯に米の食糧支援活動を行いました。それぞれの世帯に30キロの米1袋を支援しました。1袋で、1世帯2-3週間分の食料になります。</p>	
6. 主な活動成果	<p>野外生活の住民が最初に必要としたテントは、赤十字が配布したという情報が入りましたが、山の上に住むマガール族やハユ族は水田を持たず、また、貯蔵していた食糧も土砂で流されたり、がれきの下に埋まったりし、食料が不足しているとのことでした。今回の支援で、少なくとも一定期間の食料を得ることができ、飢えをしのごうができた支援した村民から聞くことが出来ました。残額については、村内に存在する小中学校の机、いす、ホワイトボード等の備品購入支援を行うよう、現地のカウンターパートと話を進めております。こちらについては、2015年10月以降2015年内に実施する予定です。</p>	
7. 活動写真	 <p>配給に集まった人々</p>	 <p>配給された米をかつぐ高地に居住する住民</p>

1. 団体名	<p>特定非営利活動法人ジェン</p> <p>ホームページ URL: http://www.jen-npo.org/</p>	
2. 活動地域	ネパール連邦民主共和国、ヌワコット郡・カヴル郡・シンドゥーパルチョーク郡	
3. 支援対象者	10,850人(内訳: 村の住民 8,250人(1650世帯)、学校生徒: 2,600名)	
4. 活動期間	2015年6月15日～2015年10月14日 ※対象期間: 2015年7月	
5. 実施した活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ダディン 郡、ドラカ郡、ヌワコット郡、ラスワ郡、シンドゥーパルチョーク郡、カヴル郡でのニーズ調査をネパールの現地団体と一緒に実施しました。 2. ニーズ調査の結果に基づき、ニーズが緊迫するヌワコット郡タナパティ村、カヴル郡ナヤゴン村、シンドゥーパルチョーク郡ビントール村において、生活必需品・寝具・トタン板を1,650世帯に配布することで村開発委員会・住民と合意しました。 3. シンドゥーパルチョーク郡ビントール村及びカヴル郡ナヤゴン村では学用品のニーズが高く2,600名に学用品の配布することで12の公立校の学校長・住民と合意しました。 4. 2,600名の児童への学用品(制服、文房具、水筒、カバン)の配布が終了しました。 5. 生活必需品・寝具・トタン板の調達が終了し、9月末及び10月初旬に配布予定です。 	
6. 主な活動成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. ネパール人スタッフの能力の向上: 本事業では日本人スタッフはOJTを通じてネパール人スタッフの能力育成に努めました。事業開始時と比較し、調査分析能力、事業実施調整能力、予算管理能力、マネジメント能力について改善が見られています。 2. 児童の継続した通学: 2,600名の児童に学用品を提供した結果、子どもたちが通学を停止せずに継続して通学しています。 3. 児童の安全の確保: ネパールでは震災後に児童労働や人身売買の被害が増大しましたが、本事業地域では児童の通学の大切さを地方行政・保護者・住民に十分説明し、学用品の配布も行いましたので、児童は通学を継続しています。その結果、児童労働や人身売買の危険から子どもたちを守ることができ、子どもの人権の促進にも貢献できました。 4. 村開発委員会と一緒に災害に強い村づくりについての協議: 9月末および10月初旬には生活必需品・寝具・トタン板を配布する予定ですが、その際に、村開発委員会や村人と一緒に今後どのように災害に強い村づくりができるかの協議を実施する予定です。 	
7. 活動写真		
	嬉しくて小さい手で受けとった学用品を一生懸命支えています。	カバンが瓦礫に埋もれ取り出せなくなったので、新しいカバンで通学できるのが嬉しいようです。

1. 団体名	<p align="center">特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会</p> <p>ホームページ URL : http://www.shaplaneer.org/</p>
2. 活動地域	<ul style="list-style-type: none"> ・タナフン郡、オカルドウンガ郡（仮設住宅支援） ・シンドウパルチョーク郡、ダディン郡、ラスワ郡、ゴルカ郡、カブレ郡、ラメチャップ郡（コミュニティラジオ再建支援） ・チトワン郡（チトワン郡生活再建支援） ・カトマンズ市、ラリトプール市、キルティプール市（カトマンズ近郊住民のメンタルケアと教育支援）
3. 支援対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋が倒壊した世帯（仮設住宅支援） ・地方のコミュニティラジオ局（コミュニティラジオ再建支援） ・移住勧告が出された世帯（チトワン郡生活再建支援） ・女性、子ども（メンタルケアと教育支援）
4. 活動期間	<p>2015年4月～（継続中）</p> <p>※対象期間：2015年4月～2015年7月</p>
5. 実施した活動内容	<p>1. 仮設住宅支援</p> <p>①</p> <p>地域：タナフン郡バヌー村 対象：家屋が倒壊した500世帯 パートナー：SWI (Social Welfare Institute)</p> <p>支援が届いていないタナフン郡で仮設住宅建設時に屋根や壁に使用できるトタン板（1.5束（9フィート12枚））を配布しました。</p> <p>②</p> <p>地域：オカルドウンガ郡マネバンジャン村、マダイプール村 対象：家屋が倒壊した310世帯 支援が届いていないオカルドウンガ郡で仮設住宅建設時に屋根や壁に使用できるトタン板（1.5束（9フィート12枚））を配布しました。</p> <p>2. コミュニティラジオ再建支援</p> <p>①</p> <p>地域：シンドウパルチョーク郡（2ラジオ）、ダディン郡（2ラジオ）、ラスワ郡（2ラジオ）、ゴルカ郡、カブレ郡、ラメチャップ郡（2ラジオ） パートナー：地方のコミュニティラジオ局 AMARC (World Association of Community Radio Broadcasters, Regional Office for Asia Pacific)</p> <p><機材提供>ネパールの生活に密着しており、地震発生時の正確な情報やその後の支援情報などを得るのに欠かせないコミュニティラジオのラジオ局が被災指定郡14</p>

©JANIC

郡内で約30か所被災して屋外などで活動している状態です。今後も余震の恐れがあり、情報の重要性がますます高まっているため、10か所のラジオ局の機材購入などを支援します。

②

地域: シンドウパルチョーク郡、ダディン郡、ゴルカ郡、ドラカ郡、カブレ郡

パートナー: 地方のコミュニティラジオ局 AMARC (World Association of Community Radio Broadcasters, Regional Office for Asia Pacific)

<コミュニティスペース>地域によりそった情報収集と情報発信をするコミュニティラジオ局に併設してコミュニティスペースを設置し(建物内4、テント内1)、人々が支援情報や地震情報を得たり、リラックスして過ごせるよう空間を提供しました。女性や子供に特化したセンターが多く、多くがクローズに向かう中でコミュニティ全体向けは特徴的でニーズが高いと実感しています。

3. チトワン郡生活再建支援

地域: チトワン郡カウレ村

対象: 移住勧告が出された24世帯(全世帯ダリット)

パートナー: RRRN (Rural Reconstruction Nepal)

被災指定郡になっていないものの、家屋の倒壊が発生し山崩れの危険から移住勧告が出されているチトワン郡カウレ村の山間部住民24世帯のチトワン郡シャクティコール村への移住生活再建支援。24の住居、8つのトイレの建設および移住後の仕事のために必要な機材の提供。

4. カトマンズ近郊住民のメンタルケアと教育支援

地域: カトマンズ市、ラリトプール市、キルティプール市



対象: 都市部住民(主に女性)、青少年



パートナー: SOUP (Society for Urban Poor)

外部からの支援が地方に集中している中で、カトマンズ近郊の被災した住民へのメンタルケアプログラムと+2進学のための奨学金支援を行いました。

メンタルケアプログラム(地震体験後に持っている不安感を軽減する方法を伝えるとともに、具体的に地震対策として家の中でできる技術を教える)は3カ月の間に15回、カトマンズ近郊で約半日のプログラム(参加者50名/回)を実施予定。男性も参加可能だが女性の参加が高いと思われます。ちなみに、心理的不安を取り除くセッションは専門家を呼んで行いますが、地震対策として家の中でできる技術を教えるためにSOUPのスタッフにNSETとSNで現在実施中の地震事業(N連)で実施する研修に参加してもらう予定です。


奨学金支援はSLC(10年生を卒業する試験)後に、大学に行くために通う+2の学校(専門学校またはCollegeと呼ばれるものがある)への入学が被災による経済的困難

	<p>できない学生(16歳前後)に行いました。小中学校等の子どもへの支援(校舎再建、学用品提供など)は多くありますが、青少年への支援はほとんどありません。その後の人生、職業選択の幅に大きく影響するため重要です。15名に2年間分を提供予定。</p>	
<p>6. 主な活動成果</p>	<p>住環境の再建(トタンの配布、移住支援)、不安感を取り除く(コミュニティスペース、メンタルケアプログラム)、教育を継続して受けられるように(奨学金)など今後の復興、将来につながっていく活動を実施することができました。</p> <p>今後は、コミュニティ防災の取り組みへつなげていくための活動を展開していきます。具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カトマンズ盆地(カトマンズ市、ラリトプール市)で家の中でできる地震被害軽減方法を学んでもらう支援 2. ラジオCM、公共機関に啓発広告などのキャンペーンなどを検討しています。 	
<p>7. 活動写真</p>	 <p><仮設住宅支援> 配布したトタン板を家から何往復もして運ぶ女性。</p>	 <p>: <仮設住宅支援> トタン板を受け取るための全壊認定(レッドカード)とクーポンを持って順番を待つ男性</p>

1. 団体名	<p>公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA)</p> <p>ホームページ URL: http://sva.or.jp/</p>	
2. 活動地域	ネパール ニワコット郡、カブレパランチョーク郡、ダーディン郡、ゴルカ郡	
3. 支援対象者	ネパール地震被災者(特に子ども、女性)	
4. 活動期間	<p>2015年4月～2015年12月</p> <p>※対象期間: 2015年4月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>① 緊急支援物資配布(2015年5月)</p> <p>ー食料(ビスケット、離乳食など)および生活物資(毛布、マット、石鹸など)をニワコット郡サムンドラデヴィ村100世帯に配布</p> <p>② 子どもたちのための学習環境整備(いずれもニワコット郡)</p> <p>ー仮設教室の建設: 122 棟(244 教室)</p> <p>ートイレの設置: 60 棟</p> <p>ー学用品および遊具・絵本配布: 100 校</p> <p>③ 女性たちのための生活再建支援事業</p> <p>ー女性向けシェルターの建設および修復: 7 棟(ニワコット郡 4 棟、カブレパランチョーク郡 1 棟、ダーディン郡 1 棟、ゴルカ郡 1 棟)</p> <p>ー子ども用スペースの設置: 7 棟(上記シェルターに併設)</p> <p>ー子ども向け活動研修: 3 日間</p>	
6. 主な活動成果	<p>① 食料および生活物資を配布することにより、地震直後の被災者が生活維持および生活を継続することができた。</p> <p>② 地震によって被害を受けた学校に対し、簡易的な仮教室およびトイレおよび学用品などが提供され、子どもたちが安心して学べる教育環境が整えられる。</p> <p>③ 地震によって被害を受けた生活困難な女性や子どもたちが、安心して生活再建に取り組める環境が整えられる。</p> <p>※②および③は現在も活動継続中のため、成果に関しては7月末時点の見込み含む</p>	
7. 活動写真	 <p>完成した仮設教室と学用品や絵本を受け取って喜ぶ子どもたち(ニワコット郡)</p>	 <p>女性向けシェルターの着工式(ニワコット郡)で日本からの支援に感謝する女性たち</p>

1. 団体名	<p>公益財団法人ジョイセフ</p> <p>ホームページURL:http://www.joicfp.or.jp/jp/activity/where/nepal/</p>	
2. 活動地域	<p>ネパール国内被災地域(バクタプール、ラリトプール、カブレ、マクワンプル、ラスワ、カトマンズ郡)</p>	
3. 支援対象者	<p>女性・妊産婦、乳幼児</p>	
4. 活動期間	<p>2015年4月～2016年3月予定</p> <p>※対象期間:2015年4月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>被災の大きい6郡の35箇所の村・地域に巡回診療チームを派遣し、5200人の女性と母子に対して、現地協力団体と連携して、産前産後健診、避妊薬(具)の提供、性感染症、HIV/エイズの予防啓発、検査、治療(性感染症のみ)、ジェンダーに基づく性暴力などのカウンセリング等の保健医療サービスを提供しました。</p>	
6. 主な活動成果	<p>周辺にアクセスが容易な公共保健医療施設がなかったり、施設自体が被災し十分に機能していないために、保健医療サービスを受けることができない被災した女性と母子に対して、妊娠や出産、避妊、性感染症、HIV/エイズ等に関連したリプロダクティブ・ヘルスサービスを届け、妊産婦死亡のリスクの回避に努めるとともに、被災女性と母子の健康に寄与しました。活動終了時には公共保健施設の一定程度は機能を回復し、今後は同施設および地域の女性ボランティアが中心となり、被災女性・母子のケアを継続的に実施していきます。</p>	
7. 活動写真		
	<p>被災地域での巡回診療(バクタプール郡)</p>	<p>産婦の健診を行う女性医師(カトマンズ市郊外)</p>

1. 団体名	<p>世界の医療団 (メドウサン・デュ・モンド ジャパン)</p> <p>ホームページ URL: www.mdm.or.jp</p>	
2. 活動地域	シンドゥパルチョーク郡	
3. 支援対象者	被災住民 医療施設	
4. 活動期間	<p>2015年4月～継続中</p> <p>※対象期間: 2015年4月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>世界の医療団はネパールにおいて20年以上の長期支援の拠点があったため、震災発生後すぐに被害が最も甚大であったシンドゥパルチョーク郡での介入が可能となりました。この地域では、90%以上の医療施設が被害を受け、74もの医療施設が全壊しました。震災発生直後、世界の医療団は19トンの緊急医療物資(外科手術用キット、自然災害用キット)を輸送しました。</p> <p>6月末までの1か月半は、緊急支援フェーズとして、外科医チームによる外科治療支援実施したほか、医療支援物資の配布、ロジスティシャン、メンタルヘルス人材の強化を実施しました。シンドゥパルチョーク郡グロチェに拠点を構え、地域一帯の約4,000名への医療支援を展開。医療チームは緊急医療チーム15名と国内スタッフ60名体制で、移動診療(モバイルクリニック)を各地で実施しました。</p> <p>6月以降は、陸地移動によるモバイルクリニックを10か所で実施している他、アクセスの悪い山間部の地域(6か所)にはヘリコプターによる移動診療を実施しています。</p>	
6. 主な活動成果	<p>被災した医療施設15カ所及び産院での医療サービス再構築に向けた支援を実施。</p> <p>震災発生から4か月で約4000件の診察を実施。</p> <p>6月から開始するモンスーンシーズンでは、感染症の蔓延が懸念されていたため、感染症予防対策として、家庭用消毒キット、衛生キット(石鹸、歯ブラシ、歯磨き粉、燃料缶)、簡易トイレキットなどを配布するとともに、それらの使用方法などの衛生指導を実施。</p> <p>陸路及び空路による医療アクセスを断たれた地域の被災住民への移動診療を実施。</p>	
7. 活動写真	 <p>現地スタッフによる仮設診療所での診察</p>	 <p>現地スタッフによる仮設診療所での診察</p>

1. 団体名	特定非営利活動法人 地球の木 ホームページ URL: http://e-tree.jp	
2. 活動地域	ネパール東部カブレ郡マンガルタール村など	
3. 支援対象者	活動地域で被災された約390世帯	
4. 活動期間	2015年5月～2015年12月31日(予定) ※対象期間:2015年4月～2015年7月	
5. 実施した活動内容	<p>カブレ郡マンガルタール村へ、防水シート144張、各区の保健ボランティアに医薬品、衛生キット(5歳以下の子どもを持つ家庭、70歳以上のお年寄りがいる家庭、障がい者のいる家庭対象)を配布。現地NGO SAGUNIにより、他のNGOと共同で実施。</p> <p>6/29～7/6地球の木による現地調査。第2次支援として、マンガルタール村と、隣接し、被害が大きかったポカリナラヤンスタン村計135世帯に仮設シェルターの支援を実施中。この他、地域の5人の若者に石工・大工トレーニング、3ヶ月を実施する予定。また、地震に対する防災トレーニングを実施予定。</p>	
6. 主な活動成果	<p>雨季に入る前に村のすべての世帯に防水シートを配布することができました。このシートはテントや、家畜小屋の屋根など、様々な用途に使用されています。</p> <p>仮設シェルターは、自力でシェルターを建てることのできない世帯を対象としています。選考基準は村の委員会の人たち、区民フォーラムのメンバー、SAGUNの三者で決め、各地域でグループを作って助け合って建設を行います。建設後はグループごとに通常行っている収入創出プログラムに参加します。12月までに仮設シェルターを完成し、並行して学校の仮設ラーニングセンターの建設を検討していきます。</p>	
7. 活動写真		
	大型防水シートを各世帯に配布	村の女性たちに地震の時の話を聞く

1. 団体名	<p>特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン</p> <p>ホームページ URL : http://www.childfund.or.jp/</p>
2. 活動地域	ネパール シンドウパルチョーク郡およびラメチョップ郡
3. 支援対象者	シンドウパルチョーク郡(4カ村)およびラメチョップ郡(3カ村)に暮らす子ども、保護者、学校、住民組織
4. 活動期間	<p>2015年4月～2016年3月</p> <p>※対象期間:2015年4月～2015年7月</p>
5. 実施した活動内容	<p>チャイルド・ファンド・ジャパンの支援地域であるシンドウパルチョーク郡およびラメチョップ郡で、下記の緊急復興支援を実施しました。</p> <p>(1)食料と物資の支給</p> <p>5月1日より緊急物資の配布を行い、約3,000世帯に米12kg、ダル(豆:スープの材料)1.5kg、塩1kgを配布しました。5月中旬からは食料に加え、防水シートとグラウンドシートを配布しました。</p> <p>(2) チャイルド・センタード・スペース(CCS)の開設</p> <p>子どもたちの心と体の健康を支えるために、読み聞かせやお絵かき、スポーツなどの活動場所となるCCSを開設しました。5つの村と1つの市で21ヶ所にCCSを開設し、1,805名の子どもたちが活動に参加しました。</p> <p>(3)仮設教室の建設</p> <p>倒壊してしまったり、壁にヒビが入ったりして、倒壊の恐れがあるため使用できなくなってしまった校舎の代替りとなる、簡易的な教室を建設しました。6カ村の32の学校に、60の仮設教室を建設しました。</p> <p>(4)スタッフおよび教師への防災研修</p> <p>7月後半、学校での災害リスク削減と子どものケアについての研修を、パートナーNGOスタッフと教員に向けて実施しました。まず、今後継続的に学校教員への研修を行えるよう、現地パートナーNGOスタッフに対してトレーナー養成研修を行いました。</p> <p>その後、教員を対象とした2日間のトレーニングが行われ、「緊急時における教育」マニュアル275冊を45校で配布しました。</p>
6. 主な活動成果	<p>(1)食料と物資の支給</p> <p>住民票を登録していない住民も多い地域だったため、当初、混乱なく配布できるか心配しましたが、以前より支援活動を行っていた地域だったこと、またパートナーNGOが独自で調べた住民世帯数情報があったこともあり、混乱することなく、</p>

どの世帯にも均等に配布することができました。配布時には、数日ぶりに食料を手にする住民も多く、涙を流して喜ぶ人もいました。

(2) チャイルド・センタード・スペース(CCS)の開設

継続的にCCSに通い、スタッフとともに楽しい時間を過ごすことにより、子どもたちの地震に対する恐怖やトラウマが軽減されていく様子が見られました。

また、自宅から少し離れた場所に通うことは、地震後、長い間家族と一緒に過ごしていた子どもたちに、「家族から離れても大丈夫」という気持ちをもたせ、再び学校生活を始める心の準備にもつながったようでした。

(3) 仮設教室の建設

7月の約3週間の夏休みの後、8月前半から2学期が始まり、授業が再開されました。子どもたちが学校に戻る時期にあわせて「バック・トゥ・スクール(学校に戻ろう)」キャンペーンを開始し、その一環として学用品セットの配布を行いました。仮設教室は、主にトタン板と竹で作られた簡易的なものですが、夏休み直後に学校が再開されたことを子どもたちはとても喜び、配布された学用品を使って一生懸命勉強しています。

なお、今後、ネパール政府より学校建築基準が発表され次第、その基準に則った学校建設に着手する予定です。

(4) スタッフおよび教師への防災研修

子どもの保護に関する研修を、今後実施していく予定です。スタッフ・教師に加え、村の代表者に対しても、子どもの保護の最低基準に関する啓発、地域に存在する子どもの保護に関する課題の確認、子どもの保護のための既存の報告システムの強化方法について研修を行います。



7. 活動写真





ボランティアで食料配布を手伝うたち



チャイルド・センタード・スペース(CCS)に
集まる子どもと地域の人々

1. 団体名	<p>特定非営利活動法人 難民を助ける会</p> <p>ホームページ URL: http://www.aarjapan.gr.jp/</p>	
2. 活動地域	ダーディン郡	
3. 支援対象者	活動地域の被災者、子ども	
4. 活動期間	<p>2015年4月 ～ 継続中</p> <p>※対象期間:2015年4月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>4月29日から緊急支援チームを現地に派遣し、被害が甚大でありながらほとんど支援の入っていなかった山間部のダーディン郡タサルプー村で、全1299世帯に米や豆、香辛料といった食料と、床敷用マット、蚊帳などの生活必需品、また、被災者のほとんどがこの地震によって家屋を失ったため、テント用資材を配付しました。</p> <p>食べ物が自力で確保できるようになってきた7月以降は、仮校舎の建設を行っています。このような公共施設の再建には行政などもなかなか手をつけることができず、ダーディン郡では多くの子どもたちがひびの入ったままの校舎や、雨の吹き込む仮テントなどで授業をしていました。そこで、同郡において仮校舎の建設を実施。7月末までに9棟の建築に着手し、内1棟が完成しました。</p>	
6. 主な活動成果	<p>地震直後の緊急時においては、支援がほとんど入らずに十分な食べ物がなく、雨風をしのぐのもやっとという方たちに、安心と安全を届けることができました。また、仮校舎の建設により、倒壊の危険性のある校舎や雨季にも関わらず雨の吹き込む校舎で勉強していた子どもたちが、安全な環境で学べるようになりました。9月10日現在では計10校の建設を完了し、今後さらに15校を建設していく予定です。</p>	
7. 活動写真	 <p>9割の家屋が損壊する被害があった山間部のタサルプー村で、食料などを配付。</p>	 <p>AARが建設した安全な仮校舎で学ぶ子どもたち。</p>


1. 団体名	<p>特定非営利活動法人 日本リザルツ</p> <p>ホームページ URL : http://resultsjp.org/</p>
2. 活動地域	<p>日本国内(東京など)</p> <p>ネパール国シンドウパルチヨーク郡の山岳地域</p>
3. 支援対象者	<p>ネパール国シンドウパルチヨーク郡の山岳地域に住み、地震後の支援が十分に届いていない人々</p>
4. 活動期間	<p>2015年4月～継続中</p> <p>※対象期間:2015年4月～2015年7月</p>
5. 実施した活動内容	<p>当初予定していた結核予防会との協働事業は、別に資金を集めて事業を開始することができませんでしたので、一旦中断しました。現在は、まだ支援が行き届いていない僻地(シンドウパルチヨーク郡の山岳地域)での支援を行うため、長崎大学の山本太郎先生と共に現地調査と情報収集に努め、被さいした女性が安全に出産し、新生児が生存するための保険医療支援事業を行うべく準備を進めています。</p>
6. 主な活動成果	<p>今後の活動についての組み立てを行いました。雨季(6月～9月頃)が明けるのを待って、10月より事業を開始します。</p> <p>【今後の見通し】</p> <p>長崎大学熱帯医学研究所の山本太郎先生と共に、大規模な被害を受けたシンドウパルチヨーク郡の山岳地帯で被さいし、未だ十分に支援が届かない地域において、被さいした女性が安全に出産し、その新生児が生存するための適切な必須ケアが確実に提供されることを目的とした保健医療支援を実施します。具体的には、現状とニーズの確認、必須医薬品、医療物資、医療機器の調達・設置、産前産後ホームの設置等について実施する予定です。</p>

1. 団体名	特定非営利活動法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン ホームページ URL: http://www.habitatjp.org/	
2. 活動地域	ドラカ郡ジリ市、カブレパランチョック郡パナウティ市、ラムジュン郡ベシサハル市	
3. 支援対象者	2015年4月25日及び同年5月12日の大地震で被災した世帯	
4. 活動期間	2015年4月～2016年5月31日(予定) ※対象期間:2015年4月～2015年7月	
5. 実施した活動内容	地震のトラウマや継続する余震に怯えて屋外で生活する被災者、危険な状態にある自宅を継続して利用する被災者、瓦礫等を再利用して急場の自宅確保を行う被災者等が住居として利用する家屋を診断して回ります。具体的には、内外壁や基礎のクラックの大きさ・場所・態様、支柱の歪みや角度などを調査し、家屋が受けた構造被害や今後予想される構造欠陥の可能性を指摘します。これを通じて、余震や雨季において長期間雨に晒されることで起こる壁面や損壊箇所の劣化による建物倒壊による被害を抑止することを目指します。	
6. 主な活動成果	現地のエンジニア2人1組で構成するモバイルチームを約50チーム編成し、被災地の3つの自治体において計5,000軒(約20,000人が居住)の家屋を診断しました。被災地では現在も、余震等の揺れがあったわけでもないのに家屋が突然倒壊し、そこにいた老夫婦が下敷きになって亡くなったり、連日降り続いた雨のために家が崩れ、逃げ遅れた2名(内1名は小学生)が犠牲になったりと、地震や雨のために脆くなった建物が、突如として人々の命を奪う実態があります。時間の経過によって住宅の老朽化・劣化は進展することから、今後も犠牲者は積み重なっていくと考えられます。被災地の住宅を診断して回る活動は、緊急支援であると同時に、予防的活動であることから、結果としてどれだけの命を救ったかどうか明示的に示すことは困難ですが、本震災後も続いている命に対する脅威に対処し、被災者の安全や安心を高めることができました。	
7. 活動写真		
	山間地域を含め、被災した世帯1軒1軒を回り、家屋の診断を行う。	山奥などでは、診断士たちもまた、テント生活で耐え凌ぐ。

1. 団体名	<p>特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン</p> <p>ホームページ URL : http://www.peace-winds.org</p>	
2. 活動地域	カトマンズ、シンドウパルチョーク郡、他	
3. 支援対象者	被災者1,700人(カトマンズ、バクタプール、シンドウパルチョーク郡)	
4. 活動期間	<p>2015年4月26日～2016年4月(予定)</p> <p>※対象期間:2015年4月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>カトマンズ市内および近郊で、行方不明者の捜索・救助活動を行った。災害救助犬およびレスキュー隊が、カトマンズ市、バクタプール市およびシンドウパルチョーク郡の山間部の村10か所程度で5日間にわたり捜索活動にあたった。生存者の発見には至らなかった。</p> <p>被災したシンドウパルチョーク郡クビンデ村500世帯(計3,000人、1世帯6人想定)に対し、1世帯あたり2週間分;米25kg、豆4kg、食用油1L、塩1kgの食糧配布を行った。シンドウパルチョーク郡サノシルバリVDC全世帯1035世帯に対し、シェルター資材(CGIシート各世帯2 bundles 16シート)を配布した。</p> <p>カトマンズ内で、シンドウパルチョーク郡北部の村から避難生活を送っているキャンプ2か所に対して支援を行っている。子供たちの栄養補給のために、鶏肉・卵・牛乳の支給を5回実施、子供たちのための音楽ライブの開催を行った。</p>	
6. 主な活動成果	<p>シェルター資材(CGIシート)の配布により、古材などと組みあわせて、村人たちは自力で仮設の家や家畜小屋、穀物の倉庫などを建てていた。</p> <p>今後、耐震構造の技術研修が始まり、コミュニティ施設を実際に建設しながらのOJT研修となっている。</p> <p>また、シンドウパルチョーク郡北部のハガンVDC被災者500世帯に、生活物資(キッチンキット、衛生キット、緊急シェルターキット)を配布する。</p> <p>今後の見通しとしては、10月には雨期から乾期になり、土砂崩れで不通になっていた道路が開通するようになる。そうなると、カトマンズ内でキャンプ生活を送っている村人たちがシンドウパルチョーク郡へ帰還することになる。この時の支援が必要不可欠になってくると同時に、シンドウパルチョーク郡北部に位置する地域住民への越冬支援も必要になってくる。</p>	
7. 活動写真		
	食料を手渡すPWJスタッフ	CGIシート配布の様子

1. 団体名	<p>特定非営利活動法人 ヒマラヤ保全協会</p> <p>ホームページ URL : http://ihc-japan.org/</p>	
2. 活動地域	<p>緊急対応:ネパール・シンドウパルチョーク地区、ゴルカ地区(2015年7月まで) 復興支援活動:ドラカ地区,バクタプール地区(2015年7月以降)</p>	
3. 支援対象者	<p>ネパール大地震で被災した被災者</p>	
4. 活動期間	<p>2015年4月(緊急支援活動-2015年7月まで) 注意)ヒマラヤ保全協会として、2015年7月以降は復興支援活動を開始。期間は約3年間というを設定、その後、必要に応じて2年を足すか検討する。今回はそのうちの7月まで。 ※対象期間:2015年5月～2015年7月</p>	
5. 実施した活動内容	<p>【緊急支援】20台のバイク、40人の薬剤師ボランティアを通じて、被災者、家屋の倒壊の状況を把握、カトマンズの本部と連絡を取り合い緊急支援。これまでに、テント、ブランケット、医薬品を届けた。 現地調査をシンドウパルチョーク、カブレ、シンズリ、ドラカで行った結果、一番支援の少ないドラカ県の貧困層の多いエリアでの復興支援活動を継続する事を決定した。</p>	
6. 主な活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールの地元の医師と薬剤師でチームを組んで調査、緊急支援活動をしたため、土地勘のある地元の人達とのネットワークが作る事が出来、迅速にそして必要な箇所に必要な物資と支援を届ける事ができた。 ・地元のネットワークを使った事で、小額で地元周辺にある緊急物資が調達できた。 ・義援金としてお預かりしたお金を緊急支援でばらまいて終わるだけでなく、被災者の復興支援として、果樹農園を作ったり、倒壊した家屋の再建設のために、大量に伐採される森林の緑化再生も支援が可能となった。 	
7. 活動写真		 <p>住民からの希望で地震被災者にアボガド、グワバ、ミカン等の果樹を配布した</p>

1. 団体名	公益財団法人プラン・ジャパン	
	ホームページ URL: www.plan-japan.org	
2. 活動地域	シンドウルパルチョーク郡、ドラカ郡、マクワンプル郡、シンズリ郡など11郡の116村(VDC)	
3. 支援対象者	上記の村の子どもやその家族	
4. 活動期間	2015年4月～継続中 (プランでの寄付募集期間:2015年 4月27日 ~ 2015年 9月30日) ※対象期間:2015年4月～2015年7月	
5. 実施した活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅(シェルター)キットの提供(ビニールシート46,121枚、毛布8,440枚、トタン板1,325枚など) ・食糧の提供(32,652セット) ・水の浄化剤(42,650錠)、安全な水キット(30,509セット) ・生理用品キット(22,255セット、約12,000人分) ・「仮設教室」の開設(166か所) ・「子どもにやさしいスペース」開設(62か所) ・仮設診療所用のテント(42セット)、出産介助セット(1,000セット)、産後キット(518セット)などの提供など 	
6. 主な活動成果	地震発生直後から現地政府や国連、ネパール国内外の団体とも協力しつつ迅速かつ大規模な支援活動を開始し、シンドウルパルチョーク郡、ドラカ郡といった最も深刻な被害を受けた地域を中心に地震発生から3カ月で196,000人(うち子どもは82,000人)の被災者へ支援を行いました。地震発生直後には、水や食糧、ビニールシート配布といった「生き延びる」ための支援を行いました。その後は、子どもたちの保護や心のケア、水や衛生、学校再開、保健といったその時の状況で最も求められる活動へと支援範囲を広げていきました。これからは、復興に向けた支援をおこないます。	
7. 活動写真		
	設置された仮設の教室で学ぶ子どもたち	安全な水キットを受け取った女の子

1. 団体名	特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン ホームページ URL : https://www.worldvision.jp/	
2. 活動地域	ネパール連邦民主共和国 Athmandu, Bakhtapur, Lalitpur districts	
3. 支援対象者	シンドパルチョーク、ゴルカ、シンズリ、ラムジュン、パクタプール、ラリプールの被災者の人々、特に子どもたち	
4. 活動期間	2015年4月～2015年9月 ※対象期間: 2015年4月～2015年7月	
5. 実施した活動内容	水、食料、テント、仮設住居の資材、台所用品、衛生用品、ソーラーランプ等の物資を届けたほか、子どもたちを中心に据えた人道支援を実施してきました。子どもたちが安全かつ自由に遊べる場所「チャイルド・フレンドリー・スペース」を設置し支援を行った。	
6. 主な活動成果	子どもたちが安全かつ自由に遊べる場所「チャイルド・フレンドリー・スペース」を35カ所に設置し、3,500人を超える子どもたちが利用しました。また、25カ所に設置した仮設校舎では、現在2,000人近くの子供たちが勉強を続けています。このように、3カ月の間に、最も被害の大きかった7つの地域で、13万人を超える人々や子どもたちに支援を届けました。	
7. 活動写真	 <p data-bbox="464 1361 948 1442">スシーラさん(右)とお母さん。後ろに見えるのは、支援物資で建てた仮設住居</p>	 <p data-bbox="975 1361 1453 1442">支援物資を受け取り、笑顔を浮かべる家族</p>

Supported by . . .



- アイエステック株式会社
 - 荒川区国際交流協会日本語教室有志一同
 - 茨城県立古河第三高等学校 3年4組
 - 認定特定非営利活動法人WE21ジャパン海老名
 - 認定特定非営利活動法人WE21ジャパンざま
 - 金光教浦和教会
 - 公益財団法人国際医療技術財団
 - 国際ロータリー第 2650 地区
 - 小平市国際交流協会
 - JICA 市ヶ谷ビル
 - 生活協同組合あいコープみやぎ
 - 公益財団法人全国友の会振興財団
 - 全日本民主医療機関連合会
 - Tomorrow For Children
 - 学校法人 東洋大学
 - 長崎外国語大学(校内学生・教職員募金)
 - 長崎外国語大学、長崎市役所および長崎県宗教者懇話会(協同街頭募金)
 - 長崎市役所(庁内職員募金)
 - 年金の窓口株式会社
 - 民主党(街頭募金・関係者有志一同)
 - 公益財団法人武蔵野市国際交流協会
 - 有機農園ファーマン
- (あいうえお順)

■ ほか・・・7 組織

■ 個人・・・552 名

※ご了承いただいた組織名のみ掲載させていただいております。

上記の皆様にご寄付いただきました。
あたたかいご支援をありがとうございました。



〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 アバコビル 5F

認定 NPO 法人国際協力 NGO センター(JANIC)

TEL:03-5292-2911 FAX:03-5292-2912 HP:<http://www.janic.org/>

みなさまからのご寄付は税控除の対象になります。